

## 「ストップ・エイズ」キャンペーン実施のお知らせ

わが国のH I V感染は性的接触によるもの（※2002年に感染経路が判明したH I V感染者の不明例を除く約98%）を中心に増加傾向にあり、積極的な予防施策が必要となっています。厚生労働省としてもエイズ予防指針のもと、既存の啓発事業に加え、青少年、外国人、同性愛者、性風俗の従事者・利用者に対し、人権や社会的背景に最大限配慮したきめ細かく効果的な施策を実施することとしています。

夏休みが始まったこの時期に、意志決定や行動選択にかかる能力の形成過程にあり、クラミジア等の性感染症の罹患率が上昇しつつある青少年を対象として、下記のとおり「ストップ・エイズ」キャンペーンを実施することといたしましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1 街頭キャンペーン

- (1) 概要 普及啓発用コンドーム、風船、リーフレットの配布  
岩室紳也氏（ヘルスプロモーション研究センター医師）によるミニ・トーク（午後6時頃）
- (2) 実施 厚生労働省、(財)エイズ予防財団等
- (3) 日時 平成15年7月25日（金） 午後4時～7時（予定）
- (4) 場所 渋谷東急百貨店東横店西館ハチ公口前（㈱東急百貨店の協力による）

#### 2 協力店（クラブ）への協力要請

- (1) 概要 クラブ店頭への普及啓発用コンドーム、リーフレット設置の依頼  
★ 協力店：club asia （渋谷区円山町1-8 TEL 03-5458-1996）  
VUENOS （渋谷区道玄坂2-21-7 TEL 03-5458-5963）
- (2) 実施 上記協力店において、マネージャーに依頼する。
- (3) 日時 平成15年7月25日（金） 午後5時30分頃

#### 3 政府広報の実施（内閣府において現在実施中）

- (1) 概要 ① スポットCM：日本代表ゴールキーパー楢崎氏を起用  
② 電光版ニュース：全国11都市の駅前等において放映  
③ モバイル携帯端末広告：iモード、EZweb、J-SKY共通の公式サイト「The News」
- (2) 期間 ① スポットCM：平成15年7月中  
② 電光板・モバイル：平成15年7月20日（日）～26日（土）
- (3) その他 渋谷区においては、Qフロントビルにて電光版ニュースを放映  
「H I V感染増加中！ほとんどが性的接触によるもの。エイズ予防にコンドームの適正使用を。保健所では無料匿名検査をしています。」

#### 4 その他

当日の取材をご希望の方は、上記担当までご一報下さい。

\* 当日連絡先 厚生労働省健康局疾病対策課 馬場（携帯 080-1084-7501）  
財団法人 エイズ予防財団 永井（携帯 090-1262-8500）

## 1 エイズ発生動向（平成14年年報より）

- (1) 平成14年の新たなHIV感染者数は614件で、過去最高を示した前年（621件）とほぼ同数になるなど、発生動向は依然として増加傾向にある。特に日本国籍男性の増加が顕著で、過去最高の481件の報告となっている。
- (2) 感染経路別にはほとんどが性的接触によるもので、全体の86.7%を占める。但し、感染経路が不明な例を除くと、その割合は約98%にもなる。
- (3) 年齢別には25歳～34歳が多く、新規感染者のうち約47%を占める。感染者に占める青少年（15歳～24歳）の割合自体は少ない。（全体の10%強）

## 2 青少年の性行動の現状

- (1) 青少年の性行動の実態を見ると、性交経験率が15歳男女で約10%、18歳で30%を超え、さらに経験率が50%を超えるのが男性は20歳、女性は21歳との調査結果が出ている。  
(財団法人 日本性教育協会 1999年調査より)
- (2) 青少年を取り巻く、性やHIV・性感染症に関する情報は不十分である。
  - ア メディアの発達により、性交について小学校時代から知っていたとする割合が相当数（男子55%、女子67%）報告されている。（厚生労働省HIV社会疫学研究班より）
  - イ 一方で、コンドームの適切な使用方法、性感染症がHIV感染の促進要因となること等感染を予防する正しい知識を持たない者が多く、HIV等の性感染症についての知識に偏りが見られる。  
(同上、平成12年「エイズに関する世論調査」より)
- (3) 青少年層にHIV感染が流行する環境ができつつある。
  - ア 東京都の発生動向調査によると、10歳代後半の性器クラミジア感染症の報告数は、平成12年において5年前の2.6倍に急増している。これは、HIV感染の危険性を上げているというだけでなく、彼らが「安全でない性行動」をとっている証左である。
  - イ 妊娠中絶の件数を見ると、平成13年における15～19歳の中絶率が5年前の約1.6倍と急増しており、「望まない妊娠」を避ける行動がとられていない。このデータは、性感染症予防の観点からも危険性が非常に高いことを示している。（厚生労働省母体保護統計より）

## 3 世界におけるHIV感染の状況

- (1) 2002年末現在、世界で4,200万人がHIVと共に生きており、2002年から2010年の間に、新たに4,500万人がHIVに感染し、その40%以上がアジア・太平洋地域で起こるだろうと考えられる。  
(AIDS epidemic update December 2002, UNAIDSより)
- (2) 現在、世界において1,180万人の青少年（15-24才）がHIV/AIDSに罹患し、さらに新規に感染する成人の約半数（毎日約6,000人）が青少年と推定されている。  
(Report on the global HIV/AIDS epidemic 2002, UNAIDSより)

## 4 青少年に対する普及啓発の必要性

青少年層においては、HIV感染の発生数自体はいまだ多くはないものの、クラミジア等の性感染症罹患率が急上昇するなど、HIV感染が流行する環境ができつつある。こうした事実をふまえ、意志決定や行動選択にかかる能力の形成過程にある青少年の時点から、正しい知識の啓発を重点的に行い、積極的な予防策を図ることが不可欠である。